

エイズ街頭キャンペーン

～世界エイズデーとは～

1988年にWHO（世界保健機関）が12月1日を“World AIDS Day”（世界エイズデー）と定め、エイズに関する啓発活動等の実施を提唱しました。その後1996年からUNAIDS（国連合同エイズ計画）もこの活動を継承しています。日本でもその趣旨に賛同し、エイズに関する正しい知識等についての啓発活動を推進し、エイズまん延防止及び患者・感染者に対する差別・偏見の解消等を図ることを目的として、12月1日を中心に「世界エイズデー」を実施しています。

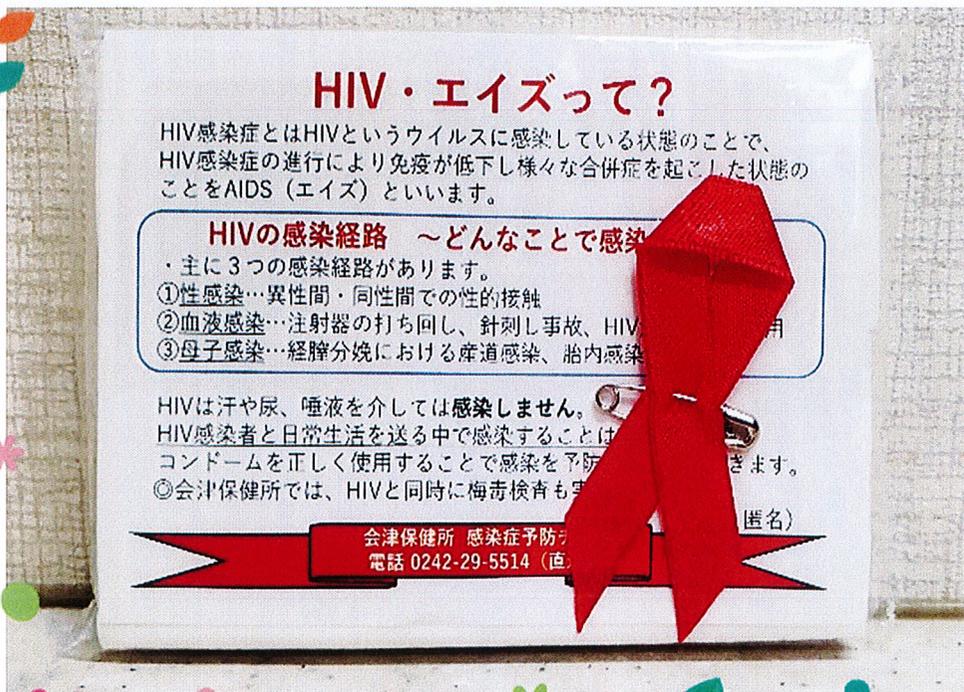
福島県内でも、12月1日の世界エイズデーにあわせて、11月29日に県北地区で、12月1日に会津地区で、12月5日にいわき地区で行われ、今年も各方部の会員が街頭キャンペーンに参加してまいりました。会津方部・浜方部をピックアップしキャンペーンの様子をご報告いたします。

～会津方部～

会津地区では12月1日に昨年同様MEGAドン・キホーテYUNI会津若松店で行われ、会津若松地区健康を守る婦人連盟、福島県保健衛生協会、福島県医療ソーシャルワーカー協会、会津保健福祉事務所から合計10名で、会員からは3名参加しました。啓発資材であるポケットティッシュを「今日12月1日は世界エイズデーです」「エイズキャンペーンです。よろしくお祈りします」と声をかけながら配布しました。その際、「さっきテレビでやっていました！」とニュースで取り上げられていたのを思い出されたのか、興味を持たれている方もいらっしゃいました。後日保健所へ問い合わせた際、400個用意していたうちの350個ほど配布したとのことでした。なお、会津保健所では、エイズデーに併せて、レッドリボンを使用した特別なクリスマスツリーを設置し、啓発活動を行っているとのことでした。キャンペーンに参加し、こういった興味を持っていただくためのきっかけ作りが大切だと感じました。

（高田厚生病院 白井佳奈子・エミネンス芦ノ牧 上野由起

・会津中央病院 渡部美枝）



～浜方部～

浜方部では、毎年いわき市保健所主催の【世界エイズデー街頭キャンペーン】に参加しております。今年度は12月5日(金)に開催され、浜方部より6名の会員が参加し、いわき駅前を通る市民の方々へパンフレット等を含む啓発グッズの配布を行いました。

立ち止まるのを躊躇するぐらいの強風でしたが、啓発グッズを受け取ってくださる方が多く、立ち止まってくれた高校生からは「エイズはどうしてなるのか」との質問もありました。今はインターネットで調べられる時代ですが、まずはエイズという言葉について知ってもらうことから始めなければ、病気の理解や感染の防止、感染者に対する差別・偏見の解消には繋がらないと感じました。また、普段の業務ではエイズの患者さんとの関わりがほとんどない状況ではありますが、今回のように地域活動に参加する上でも、適切な案内や支援ができるよう、知識をアップデートしていくことの重要性を気付かせてくれる良い機会となりました。(いわき市医療センター 鈴木彰子)

最後にエイズ予防情報ネット API-NET では、世界エイズデーのイベントや、各都道府県での取り組みなどもご覧になることができますので、ぜひご覧ください。

エイズ街頭キャンペーンの様子





✿ エイズに関する理解・基礎知識 ✿

今回紹介する3つのサイトは、エイズの基礎知識から幅広くわかりやすく掲載しております。基礎知識を学び、当事者のメッセージに触れることで、よりエイズについての学びが深まるかと思えます。

【紹介リンク】

○API-Net エイズ予防情報ネット

☞おすすめ・ポイント

HIV 検査相談マップ

<https://www.hivkensa.com/> HIV について知る

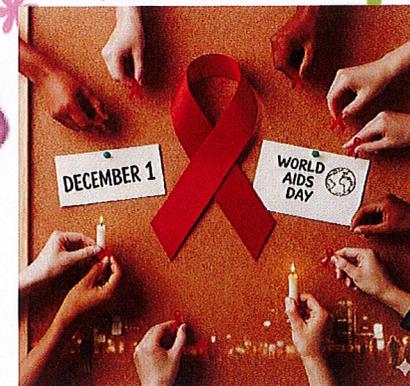
【エイズ委員から一言】

HIV・エイズについてわかりやすく紹介しています。2013年は1,590件の新規報告者数がピークだったようです。エイズに関連する年間死亡者数ですが、最も多かった2004年は210万人、2023年は63万人と減少がみられています。治療薬によって健常時と変わらない日常生活を送ることができ、寿命にもよい影響が期待できるようです。正しい知識を持つことが大切です。

1 DECEMBER



WORLD
AIDS
DAY



【紹介リンク】

○公益財団法人 エイズ予防財団

☞おすすめ・ポイント

身近な HIV・エイズの話 動画コンテンツ

https://www.jfap.or.jp/aboutHiv/LetsThinkAbout_HIV-AIDS.html

○HIV マップ

☞おすすめ・ポイント

HIV 陽性者など様々な当事者の日記、手記、声を集めたもの

<https://hiv-map.net/navi/document/>

【エイズ委員から一言】

どちらのサイトも HIV の基礎知識を掲載しているほか、当事者からのメッセージを日記や手記、コメントと様々な形で伝えてくれます。

健常時と何か変わったことはあるのでしょうか。当事者に日常に触れることができるのでぜひ読んでみてください。

最後に、今回紹介をさせていただいた3サイトは基礎知識から幅広くわかりやすく掲載をしています。基礎知識を学び、当事者のメッセージに触れることでより学びが深まるかと思えます。

エイズに関するアンケート

先日、エイズに関するアンケートを行いました。ご協力ありがとうございました。以下、アンケートの集計結果をまとめておりますのでご参照ください。今回の結果を今後の活動に活用させていただきます。

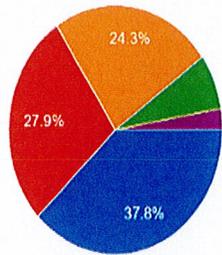
対象者：福島県医療ソーシャルワーカー協会会員

実施期間：2025年11月1日～11月30日

回答数：111件（全会員数の37%）

1. 所属機関

111件の回答

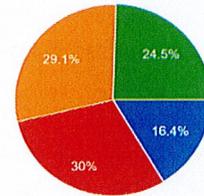


● 急性期病院（エイズ拠点病院）
● 急性期病院（エイズ拠点病院以外）
● その他の病院
● 介護保険施設・介護保険事業所
● その他

急性期病院（エイズ拠点病院）：42名 急性期病院（エイズ拠点病院以外）：31名 その他の病院：27名 介護保険施設・事業所：8名（7.2%）
その他：3名（2.7%）

2. 経験年数

110件の回答



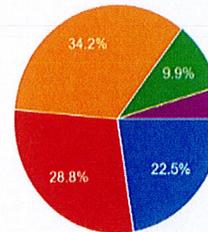
● 3年未満
● 3年以上10年未満
● 10年以上20年未満
● 20年以上

3年未満：18名 3年以上10年未満：33名

10年以上20年未満：32名 20年以上：27名

3. 年齢

111件の回答

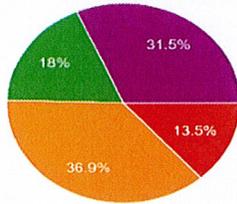


● 20代
● 30代
● 40代
● 50代
● 60代以上

20代：25名 30代：32名 40代：38名 50代：11名 60代以上：5名（4.5%）

4. HIV とエイズについてどのように理解していますか。

111 件の回答



- 関係のないものだと思う
- 同じことを意味するものだと思う
- 違うものであると思う
- 詳しくはわからない
- 正しく理解していると思う

[関係ないものだと思う]：0名

[同じことを意味するものだと思う]：15名

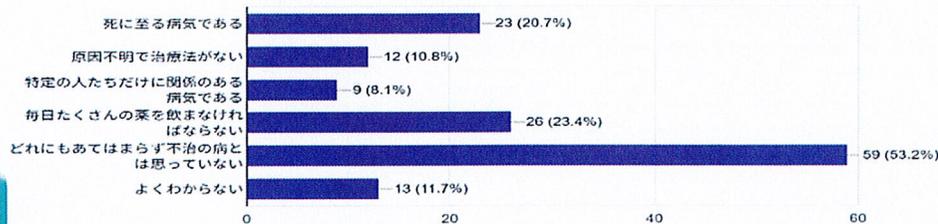
[違うものであると思う]：41名

[詳しくはわからない] 20名

[正しく理解していると思う] 35名

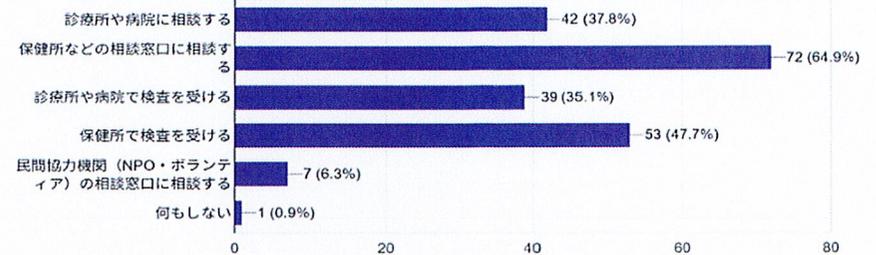
5. あなたはエイズについてどのような印象をお持ちですか。

5. あなたはエイズについてどのような印象をお持ちですか 複数回答可
111 件の回答



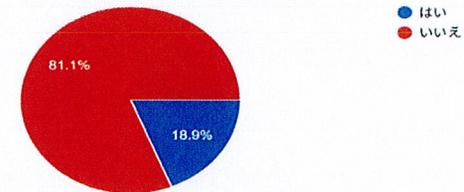
6. もし仮にあなた自身が HIV に感染したかもしれないと思った場合、どのような行動をとると思いますか。

6. もし仮にあなた自身が HIV に感染したかも...ような行動をとると思いますか 複数回答可
111 件の回答



7. エイズ感染者の相談を受けたことがありますか。

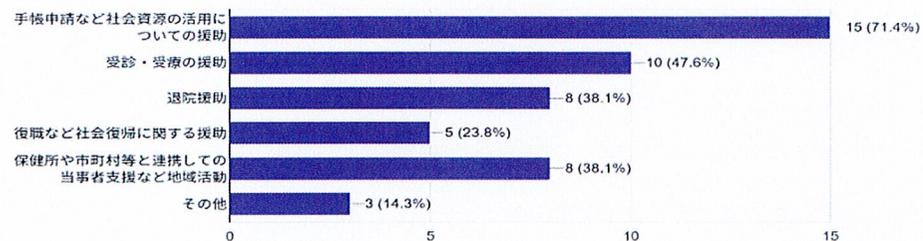
111 件の回答



はい：21名 いいえ：90名

8. 7で「はい」と答えた方に伺います。どのような援助を行いましたか。

21件の回答

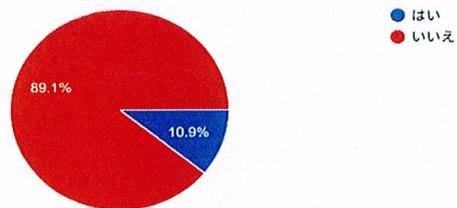


9. 8で「その他」に答えた方に伺います、具体的にどのような援助でしたか

- 家族関係に関する不安相談
- コロナ禍における当事者間のコミュニティ探し
- 県協会の24時間エイズ電話相談事業にて、電話相談を受けた。相談詳細は記憶があいまいです。

10. 7で「いいえ」と答えた方に伺います。今後エイズ感染者の援助をする際に不安なく援助できますか。

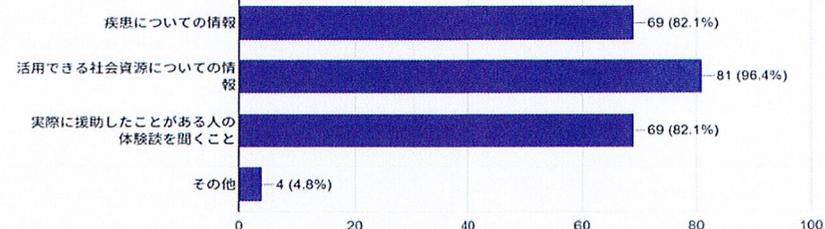
92件の回答



はい：10名 いいえ：82名

11. 10で「いいえ」と答えた方に伺います。不安なく援助するために何が必要だと考えますか。

84件の回答



12. 11で「その他」と答えた方に伺います具体的にあれば教えてください

- 患者さんからの意見
- どんなに学んでも不安はあります…
- 所属機関の他職員のエイズ理解
- 在宅サービスや慢性期病院、施設などの連携機関の理解と協力



13. 今後エイズ委員会で取り上げてほしいことや、受けてみたい研修等ご意見あればお願いします

- 具体的な事例を知りたい。
- 近隣では実際どこで治療や検査が出来るのか知りたい。
- 世の中ではエイズに関して、あまり取り上げられなくなって来ているが、偏見はまだ存在している。これは県協会のアンケートでも明らかであった。エイズはもちろんだが「偏見」に対する働きかけ(たぶん啓蒙…)は、どうするのか。あるいは当事者や賛同者の活動の状況。また、ソーシャルワーカーにとって市民活動は大切なものなので、それとの向き合い方など。
- 相談支援で関わっている支援者からの講演。
- HIV 脳症の患者の支援を担当したが、受け入れ可能な施設が無く対応に苦慮した。施設相談の際に特別な治療はしていないこと、隔離も不要であることを伝えたが、ほとんどの施設は「職員の安全が守れないから」「今まで対応した事がないから」といった理由でお断りされた。支援者のエイズ理解に向けた研修等の機会が必要だと思う。
- エイズ感染者の援助の体験談を聞きたい。
- 各医療機関での取り組みについて知る機会があれば聞きたい。
- 最新の治療について。

- ジェンダーの問題について
- エイズに関する基礎知識や日本における現状。そして、当県や近隣の県の状況などについて。社会資源など。
- エイズ患者が高齢となり、通院や介護の問題が課題となると昨年の勉強会で聞きました。具体的な事例や取り組みをしている行政や団体などの話ができれば聞いてみたいです。
- 日本でのエイズ患者の実情を知りたい。
- 11の質問にあるような、実際に援助したことがある人の体験談等が聞けると、自分が支援するとなった場合にイメージがつかのかなと思う。
- 支援者団体や、当事者団体等からお話を伺いたい。
- エイズの方を対応したことがなく経験がないため、実際に対応したことある方の体験談や対応するうえで必要になってくる支援方法を学べる研修に参加してみたい。
- 当事者支援団体等の方のお話、医療機関に期待すること等のテーマで
- HIV 感染からエイズ発症までの流れや支援制度について。
- エイズについての知識や活用する社会資源等を学ぶ研修。
- 問 11 その他以外の項目内容、特に実際に支援した経験者からのお話が聞きたい。

